小中連携

出会い、伝え合い、深め合う：会話で広げる仲間づくりの輪

坂本 南美
（同志社大学）

内容解説資料は
こちらから
ご覧いただけます

やり取りを軸にした接続期の指導

１年生の春に扱うStarterやLesson １は、小学校での学びと中学校でのスタートを重ね合わせるセクションと捉えよう。新しく出会ったクラスメイトや先生、ALTとともにクラスコミュニティを築いていくこの時期、英語授業では小中接続期における「やり取り」の活動を積極的に取り入れ、互いを知り合いながら温かなつながりを紡いでいく時間としたい。時期の「重ね」と人の「重ね」である。

「何が好き？」「同じだね！」「ダンスを習っているの？」など、教室では自然なやり取りで多様な視点から互いを知り合う機会を創り出していく。教科書では、少しずつ話題の焦点を変えながらさまざまな場面が設定されている。それぞれの設定を活用し、小学校で学んだ英語表現を確認したあと、即興でのやり取りへと発展させ、生徒が「英語を操る自分」を楽しむ時間としていきたい。仲間づくりの輪を広げるこの時期だからこそ、あたたかい空気の中で、生徒たちを意味のあるやり取りの世界へいざなおう。

Starter

Starterのコンセプトは「クラスメイトを知ろう」である。英語授業での小さなやり取りの積み重ねは、自分のクラスには誰がいるのか、彼らはそれぞれどのような生徒なのかなど、互いを知り合う第一歩となる。それはまさに始まったばかりの１年を共に過ごすクラスづくりへとつながる。ここでは小学校で習った表現をどんどん使って、ALTも交えながらたくさん話す機会を設けて授業を展開したい。

Starter １〜２に配置されている「サイコロトーク」は、ペアやグループで生徒がサイコロを振って、半分は偶発的に、また半分は予定調和的にやり取りの話題が設定される。ゲーム性も帯びているので、リラックスした雰囲気の中で小学校の復習も兼ねたやり取りができる。Starter ３〜４では、会話を通して得られた情報を書き取ってまとめる作業も用意されており、情報を整理しながら、話題を広げていける。

Starter １「好きなものを教えて！」

ここでは、クラスメイトの好きな教科をビンゴシートで尋ね合ったあと、より自由なやり取りへと活動を広げる。サイコロトークの円盤に広がる目には多様な話題が用意されていて、小学校での既習事項をたくさん使うことができる。リズムよく会話を進めてもよいし、１つの話題について深めながら話すこともできる。

対話例　A: What color do you like?
B: I like blue. It's cool. How about you?
A: I like green. Look. My pencil case is green.

できるだけたくさんやり取りする機会が作れるように、「１分間に２人で合計６回以上サイコロトークを行いましょう。」と目標の時間と回数を設定したり、タイマーを設定してペアの相手をどんどん変えていったりすることもできる。

Starter ２「好きなキャラクターは？」

Starter ２では、テーマを「人」に変えてやり取りする。好きなキャラクターを尋ね合って書き取るペア活動を行ったあと、２度目のサイコロトークが用意されており、歌手やスポーツ選手など、さまざまなジャンルの「人」について話す。小学校でもふれてきた人やキャラクターを描写する表現を加えることで、より自然なやり取りが展開できる。

また、Starter １〜２では、小学校から使ってきたつなぎことばや、リアクションの表現が添えられている。「聞き手」としての姿勢を育むこれらの表現は、１年生の初めにぜひ習慣づけていきたい。

Starter 3「ランキングを作ろう！」／Starter 4「どこに行ってみたい？」

Starter 3では、「日曜日の過ごし方」「朝食に食べるもの」などについてアンケートをとり、ランキングにまとめるという目的が設定されている。やり取りから得た情報を整理して、グループやクラスで紹介し合う中で、クラスコミュニティへの所属感も高めていけるとよい。また、習い事や動作、食べ物など、小学校でふれてきた表現を幅広く使うテーマが提示されているため、My Dictionaryを積極的に活用しながら、語句・表現を思い起こさせたい。

Starter 4では、生徒の身の回りの話題から外の世界へと視点が移り、行ってみたい国や地域をグループで調べ、ランキングにまとめる。この活動では、タブレットなどを用いて、名所や思い出の場所などを検索する時間を設けることもできる。

対話例

A: Where do you want to go?

B: I want to go to Kyoto.

A: Me, too! I want to see Kinkakuji.

Lesson 1 “About Me”

*NEW CROWN*のキャラクターたちは、生徒と同じく、中学校に入学し、新しい環境の中で出会いを経験し、新しい友だちを作りながら学校生活に馴染んでいく。Lesson 1では、そんな彼らの会話から英語表現を学び、生徒も自分のことについて話したり、書いたりする経験を重ね、単元末の活動ではプロフィールカードを作成し、それを交換してやり取りする。

とびら：まずは話してみる

Sceneでキャラクターたちの会話を聞いたあと、Name Cardを作成し、ペアで自己紹介をする活動から入る。Name Cardに記載するのは「名前」と、Starterでも扱っている「好きな色」と「好きな教科」だ。

Part 1〜3：やり取りのスキルアップ

Partでは、キャラクターたちの対話を聞いたり、生徒自身が発話したことを整理したりしながら、ターゲット文法を整理し、本文を参考にやり取りや発表の工夫を学ぶことができる。Part 1では、クラスメイトやALTへの自己紹介を通して、be動詞と一般動詞を整理する。また、一方的なスピーチで終わらないように、キャラクターの会話やExpressionsを参考に、聞き手のあいづち表現などを意識させる。Part 2〜3では、疑問文を学びながらインタビュー活動を行う。この際、さらに質問を重ねるフォローアップ・クエスチョンや会話を継続させるスキルを身につけさせたい。また、徐々に時間制限を設けるなどして、少し負荷をかけた状態で活動させることで、小学校のときよりもスキルアップしたやり取りができるように指導したい。

Goal Activity：中学生らしい自己紹介

指導書に用意されるプロフィールカードのデータを印刷・配布して活動に取り組ませる。カードには、Starterなどで話してきた「名前」や「好きなこと」だけでなく、生徒が自由にテーマを選択できる「ベスト3」を紹介するスペースが設けられている。自己紹介はStarterから何度もくり返し行っているため、そのことを踏まえて相手が知らないことを取り入れるように意識させると、クラスメイトの新しい一面を知ることができるかもしれないし、意外な共通点を発見することもあるかもしれない。相手意識をもたせることで、中学生らしい自己紹介をさせられるとよい。

英語学習のステップは、直線的に発展するようにも見えるが、実は螺旋（らせん）階段のようなものでもあるといえるだろう。少しずつ、なだらかなスロープをのぼりながら一周回って戻ってくると、同じポイントでも気がつけば以前より学習ステージが上がっている。小学校と中学校で表現が同じでも、扱うトピックや状況を少し複雑にすることによって、より詳細に、より思考力を駆使して英語を「操る」ことができるようになる。1年生の春は、そのような螺旋階段を少しずつ確かな足取りで上がっていく感覚を生徒に身につけてほしい。そして、目的を意識したやり取りを通して、英語が他者とつながるための「ことば」であり、英語を「操る」ことは意味のある営みであることを実感してほしい。

NEW CROWNとわたし

*NEW CROWN*の伝統と革新

昭和・平成・令和と時代を駆け抜けてきた*NEW CROWN*の新たな船出です。昭和から平成の前半は、題材にチャレンジした時代でした。いわゆる骨太の題材がこのときに次々と世の中に送り出されました。平成の後半から令和は、言語活動にチャレンジした時代でした。骨太の題材に骨太の言語活動を肉づけしてきました。この時代の*NEW CROWN*では、言語活動のオーセンティシティが格段に高まりました。

時代は令和に入り、*NEW CROWN*はさらに新しい時代を迎えました。「骨太な」題材と「骨太な」言語活動は、ときに使う者を怯（ひる）ませてきたかもしれません。今回は、使い勝手に真正面から向き合っています。新しい題材にも、馴染みのない言語活動にも、怯むことなくわくわくと取り組むことができるでしょう。使い手ファーストの新しい*NEW CROWN*を是非お手にとってみてください。

根岸 雅史
（東京外国語大学）